

常盤中だより



学校教育目標

「心豊かな中学生」「自ら学ぶ中学生」「活力あふれる中学生」



「一生懸命はカッコいい！」

校長 山下 誠二



6月18日に開催しました体育祭では、「全員リレー」や「円陣校歌」が復活し、生徒の熱い動き(一生懸命さ)をお見せすることができたのではないかと思います。また、多くの地域や保護者の皆様に来校していただき、素晴らしい晴天のもと、実施できましたことに感謝申し上げます。



朝の連続テレビ小説「花子とアン」で悩んでいる主人公、安東はなに幼なじみの朝市が言っていた「一番良いのは一生懸命やって成功すること、次に良いのは一生懸命やって失敗すること」という言葉があります。

一生懸命頑張るからこそ、手に入るものがあります。一生懸命頑張るからこそ、どんな結果になっても後悔しなくて済みます。一生懸命頑張るからこそ、人生は楽しいのです。一生懸命頑張ることはカッコいい？それともカッコ悪い？一生懸命頑張ることに対して本来は「カッコいいもカッコ悪い」もないのかもしれませんが、一生懸命頑張ることが「カッコいい」と思う人がいます。一生懸命頑張らなくてもできることが「カッコいい」と思う人がいます。一生懸命頑張ることが「カッコ悪い」と感じる人がいます。一生懸命頑張ってできないと「カッコ悪い」と感じる人がいます。考え方は人それぞれだし、何が正しいという訳でもないのですが、一つだけ言えることがあります。それは・・・一生懸命頑張る人は好かれる ということです。仕事やスポーツなどで一生懸命頑張っている姿を見ると「カッコいい」とか「応援したい」と思ったことはありませんか？私は結果はどうであれ一生懸命頑張る姿というのは素敵だしカッコいいと思います。

さて、子どもたちのみならず大人も何かにおいて失敗することは多々あります。私自身も成功体験より当然のことながら失敗体験の方が数多くあり、その失敗が多く詰まっているため、多少？お腹が出ています・・・。子どもには、失敗しない方法を教えることも大事ですが、それ以上に失敗したときに前を向ける強さを育てていくことの方が大事だと考えます。ヨチヨチ歩きができるようになったばかりの子どもは、本当によく転びます。しかし、何度も何度も「転んでは起き上がって」を繰り返しているうちに起き上がるのが上手になってきます。そして徐々に転ぶ回数も減ってきます。転ぶことは、成長するために必要不可欠なことだと思います。失敗はとても価値のあるもの。転ぶことに限らず、子どもが何か失敗した時や問題にぶつかった時に逃げずに向き合うこと。それを教えることが大事なことだと思います。親や教師として転ぶ前について手をかしたくなったり、子どもが転んで泣いている姿を見たら抱き上げて助けてあげたくなるのは、当然のことかもしれませんが、その行為は、子どもの可能性(自立性)を奪うことにもつながるかもしれません。子どもの力を信じて見守ることも大事。そして子どもが自分の力で起き上がることができたら、たくさん褒めて抱きしめてあげること、それが大事だと思います。

親が子供に教えなければならないのは「転ばない方法」ではなく、むしろ人間は転んだって何度だって立ち上がれるということなんじゃないか？

漫画『ハチミツとクローバー』より

